

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391000108		
法人名	医療法人 社団 孔子会		
事業所名	グルーホーム まゆの里 綾ユニット		
所在地	熊本県菊池市泗水町福本780番地		
自己評価作成日	令和4年 12月 20日	評価結果市町村報告日	令和5年 3月 16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号		
訪問調査日	令和5年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりの願いや希望を一つでも多く叶え、実現でき、まゆの里を我が家として感じる事で、自分らしくできる事やわかる事を活かし役割をもって生活していただけるように、職員も寄り添い、助け合いながら共に暮らす喜びの実現を目指しています。まゆの里職員が講師となり、勉強会を行っている。また学びを活かし質の高いケアに繋がるよう情報の共有にも力をいれています。日々のあたりまえの暮らしを大切に、尊重されていると実感していただけるようなケアを実現していきたいと考えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の中に「あなたと共に生き共に暮らしをつむいでいきます」がうたわれており、入居者と職員が生活を共にする様子を認めることができる事業所です。介護計画は「ケアプランは入居者本人のもの。本人・家族に分かってもらえることが大切。職員の理解で初めて同じケアができる。」の考えのもと入居者それぞれに対し細かく分かりやすい文章でたてられており、半年ごとの計画見直しの際にはできるだけ家族を交えた担当者会議が開催されています。この数年感染予防の観点から法人・事業所内だけでなく、家族とのやり取りもオンラインを利用する機会も増え、できるだけ家族との関わりが遠くならないよう取組まれていました。オンライン利用により職員の研修参加率も高く、質の向上・ケアの統一へ向けた取組みもみられます。地域の中でも高齢者・認知症支援の中心となる事業所であり、事業所も地域の方々に馴染みある場所であることから、入居者の「地域での暮らし」の様子がうかがえます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に、名刺ケースに理念を見られるようにカードを携帯している。	職員は名札を兼ねた名刺ケースに入れ、勤務中は常に携帯している。事業所のパンフレットにも理念と目標を記載することで、家族や地域等にも表している。職員入職時には管理者より理念についての説明を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染予防の為交流は、なかなか出来ない状態。区長さん等に、出来ることの提案や情報の共有をお願いしている。まゆの里通信を2ヶ月に一回作成し、地域の回覧板に入れてもらっている。	コロナ禍であり、以前のような入居者と地域のつながりを感じる行事等の開催は難しい状況であった。運営推進会議を利用し、地域役員へ何かできる事がないかと話す機会を持ち試みているところである。通信を回覧板に入れて頂くことにより、地域に事業所の取組みを伝えている。	コロナ禍でありながらも、地域に向けて交流の働きかけや子ども会活動への出来る範囲での協力を努めている様子が聞かれました。社会情勢が落ち着いた際には入居者と地域のつながりを感じられる取組みの再開に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染予防の為月1回行っていた、認知症カフェは今年度は開催出来なかった。認知症キャラバンメイトに登録を行っている職員がいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回のペースにて行い、感染予防の為、オンラインにて実施し、報告を行っている。オンライン参加できない方は、書面上の会議になってしまい意見聞き取りシートを活用して意見を取り入れている。	コロナ禍のため対面での会議開催を都度検討している。オンライン等を利用しできるだけ直接声を聞くことができる体制を整えており、参加できない場合には「意見聞き取りシート」を利用することにより意見を得ている。今年度は事業所と地域との関わり継続について意見交換も行った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市担当者に出席頂き意見を頂いている。認知症サポート養成講座へ、講師派遣協力をおこなっている。高齢者地域見守りネットワークへの協力等、日頃から行政との協力している。	運営推進会議への参加、講座開催時や市の取組みへの協力等が継続している。従来より事業所では県・市・地域との協力体制による認知症啓発等も行っており、事業所運営とともに日頃からの取組みを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の勉強会やミーティングにて、身体拘束について勉強会を毎年行っている。身体拘束は行っていない。法人の身体拘束適正化検討委員会を3ヶ月1回開催、参加している。	法人の身体拘束適正化検討委員会の他、事業所でも身体拘束に関するマニュアル・指針を定め、入職時及び職員研修・事業所勉強会を実施している。委員会では言葉遣いについても繰り返し議題に挙がっている。身体拘束についての研修時は全職員参加を基本としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会ミーティングにて、高齢者虐待防止について学んでいる。日頃のケアに統一に努めている。		

グループホーム まゆの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の勉強会ミーティングにて、権利擁護について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、説明を行っている。 介護報酬改定等で、利用料金が変化する場合はその都度説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居前に、契約書や重要事項説明書の内容について説明し、不明点がないか確認を行っている。	入居前・入居時には本人・家族等より意見や要望を聞いている。現在はコロナ禍で以前のような面会受入れは難しい時期もあるが、運営推進会議や家族の来訪、オンライン面会、職員から家族への電話連絡等を利用し、できるだけ家族の意見を表せる機会を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時などに、職員の意見を聞き反映している。	毎月の職員会議や年2回の職員面談等だけでなく、日頃から管理者は職員からの意見や提案を聞く機会を持っており、必要に応じ法人への相談を行っている。職員会議はオンラインも利用し、できるだけ情報の共有ができるよう取組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れ、評価を行っており、個別的に面談を行い、助言を行いやる気に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンライン及び、集合研修にも参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンライン及び、集合研修時意見交換などで交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報提供書を読んだうえで、ご本人の行動、訴えを聞き対応している。安心して生活が出来るような関係を構築できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前は、ご家族との面談を行い、困っている事や不安な事、これまでの経緯や思いをしっかりと聞き、今後の信頼関係が築けるようにしている。また、いつでも気軽に相談してもらえるような、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況や思い、要望を聞き、現状が当ホームの利用に適切であるのかを考え対応している。必要に応じて、居宅のケアマネジャー・病院等と連携し、他のサービスが適切な場合はサービスの紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念でもある、「共に生き、共に暮らしをつむいでいきます」が実現できるように、暮らしの中で入居者、職員が共に助け合い、できる事はして頂き、料理や掃除など職員も教わりながら日々の暮らしを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染予防為、面会制限を行ってきた。夏季は、感染対策を行い、出来限り面会を行ってきた。又、オンライン面会や窓越し面会を実施した。家族来所時は情報交換・コミュニケーションを図っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出話や、過去の話は傾聴するようになっています。現在はコロナ禍であり自由にならないこともありますが、できるだけ安全を確認した上で面会の場を設けたりしている。	以前のように気軽な来訪や外出による馴染みの関係継続は難しい状況であるが、家族との関係を大切にし、リスクレベルにより受入れ方法を工夫した。入居者のユニット間の往来や毎月訪問頂く理美容の利用等、入居後の新たな馴染みの関係作りも見られる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や状態を考慮し、家事やレクリエーションを一緒に行い助け合う様子が見られる。リビングの席やテーブルのセッティングは、入居者の関係性に注意しながら検討している。		

グループホーム まゆの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、状況を尋ねたり、相談にのったり状況に応じて必要なサービスを紹介したりしている。ホームでの様子を職員に伝え、今までの暮らしが継続できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当がご本人意向を聞きとり、できる限り希望に添うようにしている又、ケアプラン作成にも反映している。	入居者の中には思いを表すことが困難なケースもあるが、出来るだけ日頃の職員の寄り添いで一人ひとりの思いや希望・意向の把握を行っている。今年度は「私の気持ちをわかって」をテーマにし、全職員で法人内研究発表に取り組んだ。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報の聞き取りから生活歴や今まで暮らしを確認し、本人や家族からも話を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察を行うと共に、できる事やわかる事に着目し、どのような支援を行えば出来るか、話し合い検討を行っている。又、毎日の申し送りで、一人一人情報伝達を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	記録に残し、チームで情報交換共有を出来るようにしている。必要な課題がある場合は、ミーティングで話しあうようにしている。	毎月のモニタリングや職員会議での意見交換、担当職員を中心とした半年毎のアセスメントを元に、年2回介護計画の見直しを行っている。見直しの際はできるだけ家族・本人も参加し担当者会議を行っている。介護計画は入居者本人のためのものであり、本人・家族・職員みな理解が大切であるとの考えのもと作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間を通して、SOAPで記録を行っている。毎日の様子や入居者の言葉、職員の対応など細やかに記録している。特に全職員で共有すべき出来事は、申し送り記録を確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の観察を行うと共に、できる事やわかる事に着目し、どのような支援を行えば出来るか、話し合い検討を行っている。又、毎日の申し送りで、一人一人情報伝達を行っている。		

グループホーム まゆの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染予防の為交流は、難しい状態。外出が現在難しいが、廃品回等地域子供会が来ている。運営推進会議内で、老人会や子供会と何か連携できないか提案を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を確認し、以前のかかりつけ医を希望される場合は継続している。感染予防の為に、病院側と受診時間を調整したり、車の中で診察、往診をしてもらうなどの協力依頼を行い実施している。	入居以前のかかりつけ医の受診を継続支援しており、通院・往診もある。従来、通院は家族の協力を依頼していたが、コロナ禍であるため現在は職員による通院介助を行っている。できるだけ往診を依頼しているところではあるが、通院が必要な医療機関では時間や診察方法への配慮も頂いた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化があった時だけでなく、普段からホーム内の看護職と連携し相談、対応ができるようにしている。異常あれば家族に連絡、相談しかかりつけ医や必要な病院への受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホームでの様子を情報提供している。入院中は、家族や病院の看護師や相談員と連絡をとり、情報交換や今後について相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に「利用者の重度化及び看とり介護に関する指針」を説明している。今年度は、看取りの対象利用者はいなかった。今後、重度化や終末期になった場合は本人、家族と話し合い連携しながら、支援していきたい。	入居時に事業所の対応や取組み(指針)を説明し、希望される場合は看取りまで支援を行っている。実際にその時を迎えた際には入居者本人・家族・関係機関で話し合いを重ね、医療を希望される際には入院となるケースもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法とAEDについて学んでいる。急変時はマニュアルに添って、対応している。事業所内に、AEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内の事業所と連携し、消防署立会いのもと昼・夜間想定避難訓練を実施している。法人内の備蓄他、ホーム内にも備蓄している。今後地域との連携も図りながら取り組んでいきたい。	入居者参加にて実施する年2回の避難訓練では職員間でも出火場所を明かさず、より実践的に行っており、実施後は職員から反省・感想・意見をj得ている。今年度は職員研修で水害についての机上訓練も行った。コロナ禍でもあり、感染症発生時における業務継続計画も作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーが保てるように、居室は入居者がカギをかけられるようになっている。人生の先輩として尊重し、丁寧な言葉かけや対応をするようにしている。	接遇をテーマにした職員研修を行っている。職員は人事考課において接遇の項目もあり、振返る機会も持っている。ケアの際に気になる点が見られる職員には管理者等からも声を掛けたり面談の際に話す機会を持っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、飲み物の選択や入浴時間など利用者が自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを把握しその人らしく穏やかに生活できるのか、また入居者に聞きながら、できるだけ叶えられるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は、自分が着たいものを選んでもらっている。女性は、自分の化粧品でお化粧している又、外出や行事がある時は、おしゃれ着を着てもらい、スカーフやアクセサリ、帽子などを身につけて出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備、盛りつけ、配膳や下膳などできる事をしてもらっている。誕生日には、食べたい料理を聞き提供している。	職員手作りの食事を提供しており、準備から下膳まで、できるだけ入居者の関わりが持てるように取組んでおり、好みや硬さ・大きさ等、入居者に合わせた対応を行っている。食事開始時には入居者の「いただきます」の声もあり、家庭のような雰囲気も持つ。おやつは事業所内で手作りする機会もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は、個別の必要水分量を出して毎日把握して。本人の希望や、状態に応じて食形を変更したり、好みの飲み物に変更したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。口腔ケア後は口腔内の観察を行い、夜間は義歯を預かっている。治療が必要な方や、定期的なメンテナンスをされている方もいる。		

グループホーム まゆの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の、排泄パターンをアセスメントしその人にあった、パットを検討している。可能限り、トイレで排泄出来るようにしている。	事業所では「できるだけトイレでの排泄」を基本としている。オムツ等費用負担への配慮もあり、入居者のその時の状況により職員・家族と話し合いを重ね、工夫している。夜間もそれぞれの睡眠状況によりパットの種類を返る等、個別の対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	さつま芋などの食物繊維を味噌汁に入れたり、牛乳やヨーグルトを勧めたりして便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂は温泉を使用し、入りたい時に入れるように、無理強いはいしない希望にそって入浴ができるようにしている。また、一人一人のADLに合わせて、リフト浴や檜浴を使い分けるようにしている。	2ユニットで利用できる浴室はリフト浴・檜風呂の2か所である。入居者の身体状況により複数介助もあるが、温泉を使用した湯舟に入ることを基本としている。入浴の際は好みの時間を確認する等、入浴前から気持ちよく過ごして頂けるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やリビングのソファ、畳の間など、思いの好きな場所で休んだり、昼寝をしたりゆっくりと、すごしてもらっている。夜間は衣類、寝具の調整、室温湿度の調整を行い、気持ちよく眠れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニット毎に、ファイリングを行い職員が見られるようにしている。排便の状態が申し送りされ、状態に合わせて調整がされている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台拭き、調理の手伝い、洗濯干し、たたみ、できることを無理なく行っていただいている。花も水やりが日課の方がおり、進んで行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防の為、外出は中々できなかったが近隣を散歩したりして、地域の方とすれ違い様に挨拶を行ったりできている。	コロナ禍であり、以前のように計画による遠出や買い物、気軽な外出は難しい状況であったが、近隣や敷地内の散歩で外気を感じる機会を持った。春の花見等、季節のドライブは行った。敷地内・周辺では近隣住民の姿も日常的に見られ、散歩の際には触れ合う姿もある。	感染予防の観点から、外出支援が難しい状況がうかがえました。社会情勢が落ち着いた際には、馴染みのある場所を訪れる等の機会作りの再開に期待します。

グループホーム まゆの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいはホームで預かり、買い物時自由に使えるようにしている。金銭を手元に持っていたほうが、落ち着かれる方には、家族理解のもと、少額を本人が持たれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望が、あれば電話を取り次いで話していたり、手紙を郵送したりしている。携帯電話を所有している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地中熱システムを導入し、快適な室温・湿度が保てるようにしている。季節の花を飾ったり、壁紙に季節の飾りを、入居者と作り飾ったり、季節を感じられる環境作りを行っている。テレビはみたい方がいる時は、つけているが、誰も見ていない時は消し、不快な刺激とならないようにしている。	昼間ほとんどの入居者が集うことが多いダイニングスペースは「くつろげるように」と配慮され、畳や小上がりスペースもあり、窓際に設けられたソファ等でそれぞれにゆったりと過ごす姿や新聞を読む姿も見られる。食事前には入居者同士会話を楽しむ姿もある。家族から頂いた花を活けたり、習字等作品の展示もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	みんなで集うダイニングテーブルの他に、窓際のスペース、ソファ、畳などがあり、好きな場所で、自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた、タンスやソファなどを持って来られたり、家族の写真や自宅で育てた花を飾ったり、一人ひとりが落ち着いて、過ごせるようにしている。	ベッド・押入れが完備された居室には自宅から持ち込まれた筆筒等が設えられており、写真や花等、好みや家族を感じることができる。和・洋室ともに居室内にも手すりがあり安全への配慮もある。居室入り口には名前・飾り等それぞれの目印がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで生活動線には、手すりを設置している。整理整頓をして安全に生活で出来るように配慮している。畳で洗濯物をたたんだり、椅子に座って調理の手伝いができるように低めの配膳台を備え付けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391000108		
法人名	医療法人 社団 孔子会		
事業所名	グルーホーム まゆの里 絹ユニット		
所在地	熊本県菊池市泗水町福本780番地		
自己評価作成日	令和4年 12月 20日	評価結果市町村報告日	令和5年 3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosp/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和5年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に、名刺ケースに理念を見られるようにカードを携帯している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染予防の為交流は、なかなか出来ない状態。区長さん等に、出来ることの提案や情報の共有をお願いしている。まゆの里通信を2ヶ月に一回作成し、地域の回覧板に入れてもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染予防の為月1回行っていた、認知症カフェは今年度は開催出来なかった。認知症キャラバンメイトに登録を行っている職員がいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回のペースにて行い、感染予防の為、オンラインにて実施し、報告を行っている。オンライン参加できない方は、書面上の会議になってしまい意見聞き取りシートを活用して意見を取り入れている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市担当者に出席頂き意見を頂いている。認知症サポータ養成講座へ、講師派遣協力をおこなっている。高齢者地域見守りネットワークへの協力等、日頃から行政との協力している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の勉強会やミーティングにて、身体拘束について勉強会を毎年行っている。身体拘束は行っていない。法人の身体拘束適正化検討員会を3ヶ月1回開催、参加している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会ミーティングにて、高齢者虐待防止について学んでいる。日頃のケアに統一に努めている。		

グループホーム まゆの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の勉強会ミーティングにて、権利擁護について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、説明を行っている。 介護報酬改定等で、利用料金に変化する場合はその都度説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居前に、契約書や重要事項説明書の内容について説明し、不明点がないか確認を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時などに、職員の意見を聞き反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れ、評価を行っており、個別的に面談を行い、助言を行いやる気に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンライン及び、集合研修にも参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンライン及び、集合研修時意見交換などで交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報提供書を読んだうえで、ご本人の行動、訴えを聞き対応している。安心して生活ができるような関係を構築できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前は、ご家族との面談を行い、困っている事や不安な事、これまでの経緯や思いをしっかりと聞き、今後の信頼関係が築けるようにしている。また、いつでも気軽に相談してもらえるような、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況や思い、要望を聞き、現状が当ホームの利用に適切であるのかを考え対応している。必要に応じて、居宅のケアマネージャ・病院等と連携し、他のサービスが適切な場合はサービスの紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念でもある、「共に生き、共に暮らしをつむいでいきます」が実現できるように、暮らしの中で入居者、職員が共に助け合い、できる事はして頂き、料理や掃除など職員も教わりながら日々の暮らしを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染予防為、面会制限を行ってきた。夏季は、感染対策を行い、出来限り面会を行ってきた。又、オンライン面会や窓越し面会を実施した。家族来所時は情報交換・コミュニケーションを図っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出話や、過去の話は傾聴するようにしています。現在はコロナ禍であり自由にならないこともありますが、できるだけ安全を確認した上で面会の場を設けたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や状態を考慮し、家事やレクリエーションを一緒に行い助け合う様子が見られる。リビングの席やテーブルのセッティングは、入居者の関係性に注意しながら検討している。		

グループホーム まゆの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、状況を尋ねたり、相談にのったり状況に応じて必要なサービスを紹介したりしている。ホームでの様子を職員に伝え、今までの暮らしが継続できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当がご本人意向を聞きとり、できる限り希望に添うようにしている又、ケアプラン作成にも反映している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報の聞き取りから生活歴や今まで暮らしを確認し、本人や家族からも話を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察を行うと共に、できる事やわかる事に着目し、どのような支援を行えば出来るか、話し合い検討を行っている。又、毎日の申し送りで、一人一人情報伝達を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	記録に残し、チームで情報交換共有を出来るようにしている。必要な課題がある場合は、ミーティングで話しあうようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間を通して、SOAPで記録を行っている。毎日の様子や入居者の言葉、職員の対応など細やかに記録している。特に全職員で共有すべき出来事は、申し送り記録を確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の観察を行うと共に、できる事やわかる事に着目し、どのような支援を行えば出来るか、話し合い検討を行っている。又、毎日の申し送りで、一人一人情報伝達を行っている。		

グループホーム まゆの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染予防の為交流は、難しい状態。外出が現在難しいが、廃品回等地域子供会が来ている。運営推進会議内で、老人会や子供会と何か連携できないか提案を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を確認し、以前のかかりつけ医を希望される場合は継続している。感染予防の為に、病院側と受診時間を調整したり、車の中で診察、往診をしてもらうなどの協力依頼を行い実施している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化があった時だけでなく、普段からホーム内の看護職と連携し相談、対応ができるようにしている。異常あれば家族に連絡、相談しかかりつけ医や必要な病院への受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホームでの様子を情報提供している。入院中は、家族や病院の看護師や相談員と連絡をとり、情報交換や今後について相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に「利用者の重度化及び看とり介護に関する指針」を説明している。今年度は、看取りの対象利用者はいなかった。今後、重度化や終末期になった場合は本人、家族と話し合い連携しながら、支援していきたい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法とAEDについて学んでいる。急変時はマニュアルに添って、対応している。事業所内に、AEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内の事業所と連携し、消防署立会いのもと昼・夜間想定避難訓練を実施している。法人内の備蓄他、ホーム内にも備蓄している。今後地域との連携も図りながら取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーが保てるように、居室は入居者がカギをかけられるようになっている。人生の先輩として尊重し、丁寧な言葉かけや対応をするようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、飲み物の選択や入浴時間など利用者が自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを把握しその人らしく穏やかに生活できるのか、また入居者に聞きながら、できるだけ叶えられるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は、自分が着たいものを選んでもらっている。女性は、自分の化粧品でお化粧している又、外出や行事がある時は、おしゃれ着を着てもらい、スカーフやアクセサリ、帽子などを身につけて出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備、盛りつけ、配膳や下膳などできる事をしてもらっている。誕生日には、食べたい料理を聞き提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は、個別の必要水分量を出して毎日把握して。本人の希望や、状態に応じて食形を変更したり、好みの飲み物に変更したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。口腔ケア後は口腔内の観察を行い、夜間は義歯を預かっている。治療が必要な方や、定期的なメンテナンスをされている方もいる。		

グループホーム まゆの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の、排泄パターンをアセスメントしその人にあった、パットを検討している。可能限り、トイレで排泄出来るようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	さつま芋などの食物繊維を味噌汁に入れたり、牛乳やヨーグルトを勧めたりして便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂は温泉を使用し、入りたい時に入れるように、無理強いほしない希望にそって入浴ができるようにしている。また、一人一人のADLに合わせ、リフト浴や檜浴を使い分けるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やリビングのソファ、畳の間など、思い思いの好きな場所で休んだり、昼寝をしたりゆっくりと、すごしてもらっている。夜間は衣類、寝具の調整、室温湿度の調整を行い、気持ちよく眠れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニット毎に、ファイリングを行い職員が見られるようにしている。排便の状態が申し送りされ、状態に合わせて調整がされている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台拭き、調理の手伝い、洗濯干し、たたみ、できることを無理なく行っていただいている。花も水やりが日課の方がおり、進んで行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防の為、外出は中々できなかったが近隣を散歩したりして、地域の方とすれ違い様に挨拶を行ったりできている。		

グループホーム まゆの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいはホームで預かり、買い物時自由に使えるようにしている。金銭を手元にかけていたほうが、落ち着かれる方には、家族理解のもと、少額を本人が持たれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望が、あれば電話を取り次いで話していたり、手紙を郵送したりしている。携帯電話を所有している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地中熱システムを導入し、快適な室温・湿度が保てるようにしている。季節の花を飾ったり、壁紙に季節の飾りを、入居者と作り飾ったり、季節を感じられる環境作りを行っている。テレビはみたい方がいる時は、つけているが、誰も見ていない時は消し、不快な刺激とならないようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	みんなで集うダイニングテーブルの他に、窓際のスペース、ソファ、畳などがあり、好きな場所で、自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた、タンスやソファなどを持って来られたり、家族の写真や自宅で育てた花を飾ったり、一人ひとりが落ち着いて、過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで生活動線には、手すりを設置している。整理整頓をして安全に生活で出来るように配慮している。畳で洗濯物をたたんだり、椅子に座って調理の手伝いができるように低めの配膳台を備え付けている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームまゆの里

作成日 令和5年3月16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災での避難訓練しか行っておらず、地域特有である地震や水害の避難訓練が十分できていない。	火災での避難訓練だけでなく、より多くの災害にも対応できるように地震や水害時での避難訓練や知識を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・地震想定での避難訓練の計画、実施を行う。 ・まゆの里の勉強会にて水害時での避難訓練や対策等の計画を行う。 	1年
2	29	コロナの感染対策から地域行事が中止となったり、感染リスクのある為接触を控えたりと、地域交流の機会が減少している。	施設での交流の場を作り、グループホームの役割を活かす。	足湯カフェを開催して、地域の方を招待する。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。